

集落支援員2年目のふりかえり

～農村RMO奮闘記～

令和7年1月29日

伊達市集落支援員（霊山地区担当）

大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」 事務局長

霊山道先案内人会事務局

かもしか創生舎

浜田 和彦

目次

はじめに

1. 農村RMOと協議会の概要
2. 1年目の活動 – ビジョン策定
3. 2年目の活動 – 計画と実践
4. 農村RMO活動の課題
5. 3年目へむけて

おわりに

はじめに

×本来の集落支援員活動（霊山地区）



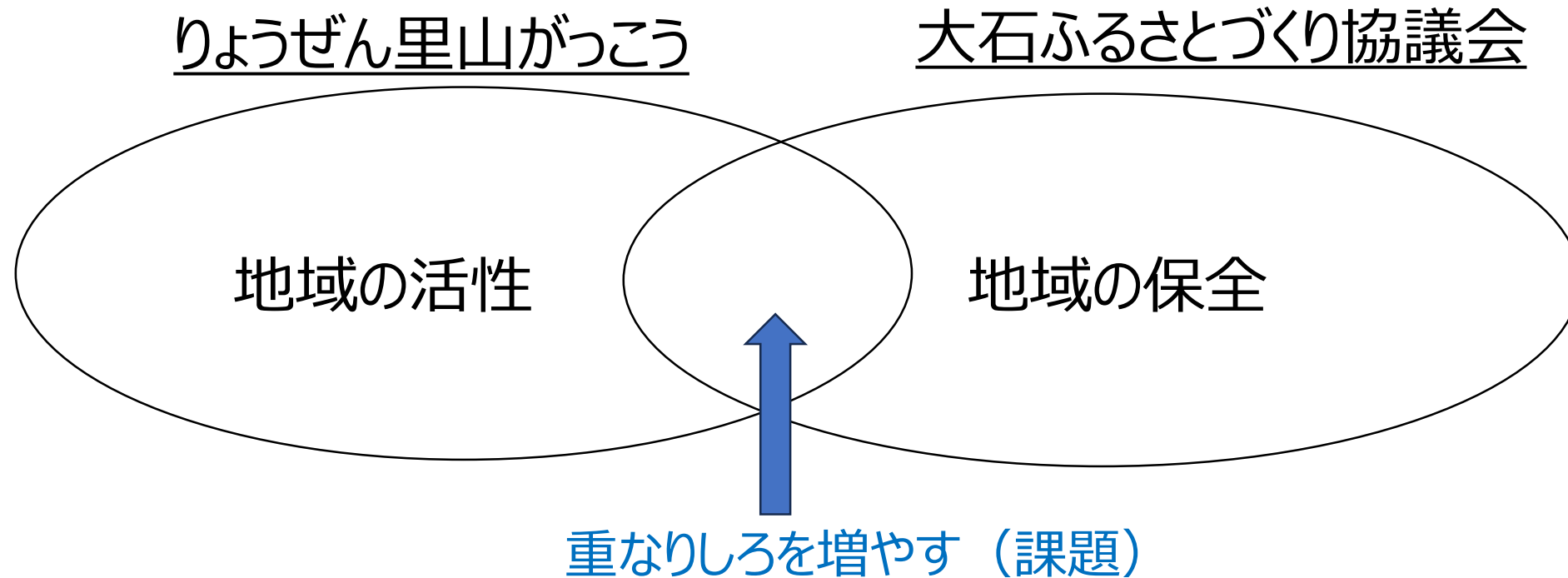
大石地区での農村RMO活動（今回の報告）

名峰霊山の魅力の発信と保全

- ・ホームページ開設
- ・新案内ルート開拓（霊山の産業遺産）
- ・インドアイベント（まるっと霊山）
- ・景観整備調査（ワシ岩）

1. 農村RMOと協議会の概要

1) 地域の現状：霊山町大石地区の二極構造（イメージ）



・地域＝大石＋近隣地域

・地域＝大石

・活動＝外方向（地域の交流、自立）

・活動＝内方向（地域住民の暮らし）

地域がつながる（個々の力をあわせる）

2)農村RMOとは

- ・**農林水産省**が提唱する助成事業。中山間地域において地域づくりに関わる複数の団体や組織が相互連携し、**組織横断型で活動を推進していく地域運営組織（協議会）を支援**（自治会、NPO活動団体、農業団体、社会福祉協議会、地域コンサルタント他組織等の連携）。
- ・活動の基礎となる「**農用地の保全**」、「**地域資源の活用**」、「**生活支援**」に関わる将来ビジョンを策定、これに基づき各事業を計画・**実証**する（**期間 3 年間**）



**国の交付金を使った、中山間地域再生のための実験
行政主導→住民主導（協議会は基盤形成＆触媒組織）**

農用地保全

地域資源活用

生活支援

3) 協議会の概要

①名称：大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」

＊令和6年7月27日、有志構成員（団体）による設立

<組織名への思い>

○“チーム”

地域を良くしたいという思いをもった有志のグループ
志があれば誰もが参加でき、ゆるやかに明るく協働で活動を行っていこう！

○“さすけネット”

伊達地方の方言「さすけねえ」は「だいじょうぶ、問題ない」という意味
困難な状況でも、この言葉で緊張を緩和し地域に住む人との良きネットワークを！

○“りょうぜん”

霊山町大石地区が対象地域だが、これからの事業を考えると当地区内に固執する
事なくさまざまな外部関係者含めてのダイナミックな活動が重要

②体制

チームさすけネットりょうぜん

「構成員」

NPO法人りょうぜん里山がっこう（事務局）

大石3ちゃん倶楽部（実践団体）

大石中山間地域等直接支払い協定集落

（有）りょうぜん天味園

パン工房ポレット

大石健康長寿サロン（実践団体）

ふれあいカフェ「わくわく365」

かもしか創生舎

「連携団体」

（株）EM研究機構

（株）DCSふくしま

MBTリンク福島研究所

（株）ナナイロ

「県・市町村関連機関」

伊達市包括支援センター

伊達市産業部農政課

福島県農林水産部農村振興課

福島県県北農林事務所

③農村RMO展開スケジュール

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
活動期間	申請・受理 ☆7月 協議会発足 1年目（8月～3月）	2年目（8月～3月）	3年目（?月～3月）	
ビジョン策定				
調査・計画				
実証				

予算： ¥ 530万 予算： ¥ 900万→¥650万 予算： ¥ ???万

<メリット>

- ◎ 地域の総合力を結集し、大石地域を再生するにはまたとない機会（追い風）
（国県市町村の後押し、交付金補助）
- 地域の注目度、知名度アップ
他地域からの組織・人との交流の拡大、



地区住民の危機意識
愛着意識



地区住民の協働行動
（自分事として）



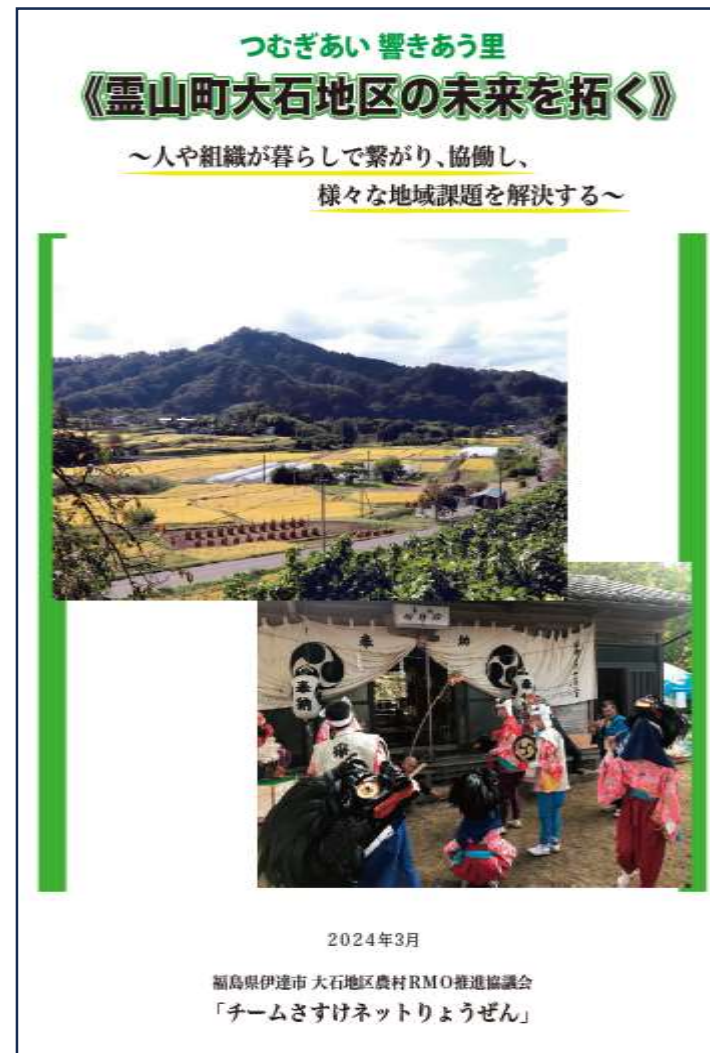
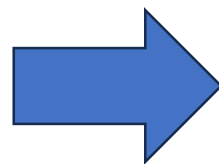
地区の自立・自活

2. 1年目の活動 - ビジョン策定



地元住民との意見交換会
（大石の未来を語る会）

令和6年2月（3回実施）



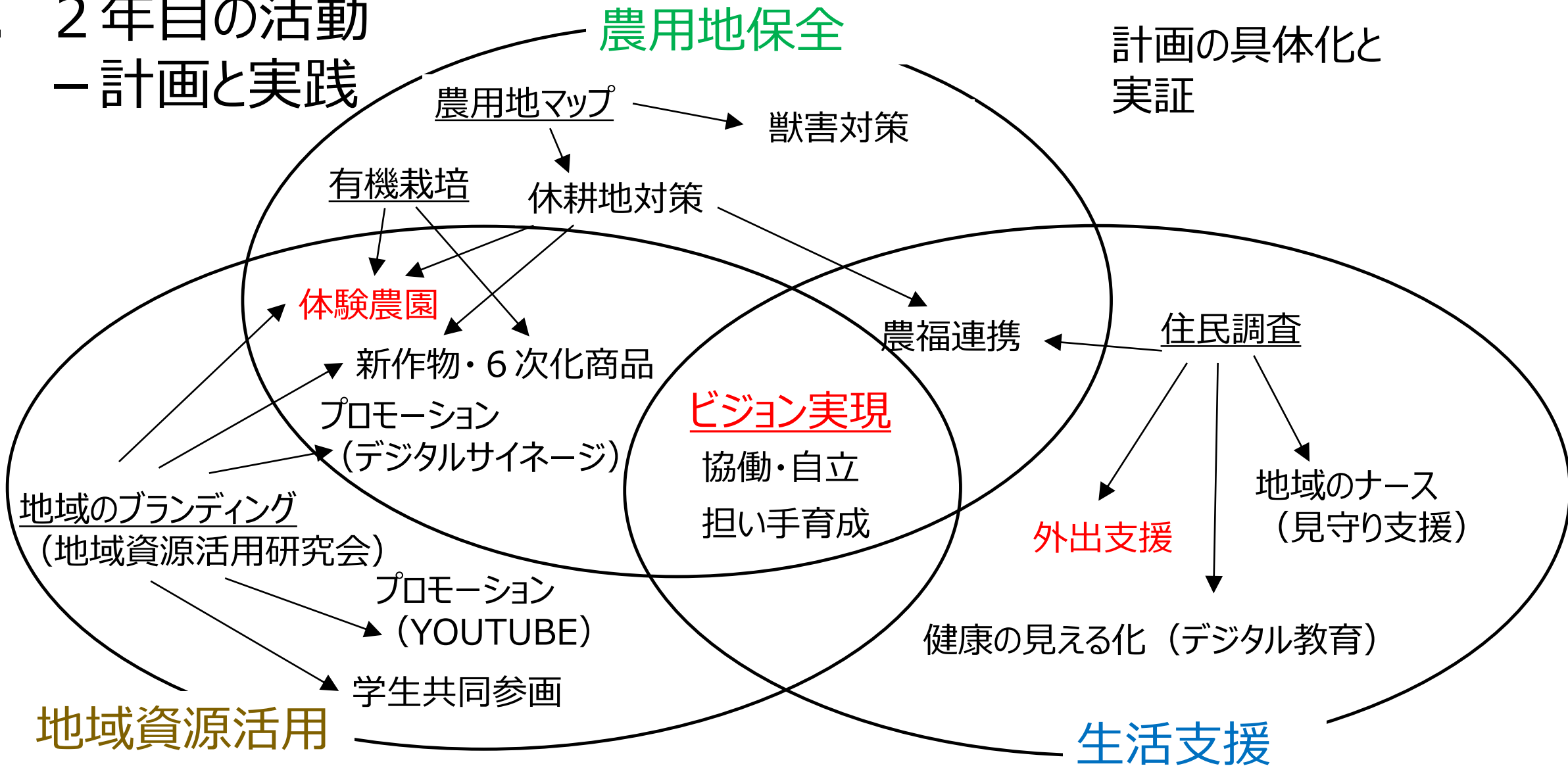
地域ビジョン（令和6年3月）

◎ 策定ビジョン（冒頭）

「つむぎあい響きあう里 大石」をめざし

- ・ **誰もが**安心して暮らせる、**未来に希望を持てる地域**をつくる。
- ・ 未来に希望を持てる地域をつくるために、**人と組織が暮らしで繋がり協働**する事で、様々な地域課題を解決していく。
- ・ **未来を拓く最大の資源は「人」**。住民全体が**人材**（役に立つ人）となり、小さな成果の蓄積から**感謝の輪を生む関係性づくり**に繋げる。
また、その関係性の先に交流人口、関係人口を拡大し、地域における**若い担い手の確保**に繋げる。

3. 2年目の活動
ー計画と実践



計画のポイント：点→線→面へ展開するためのストーリー作りが重要

1) 体験農園

30aの休耕地を開拓し、
体験農園

「大石8ちゃんファーム」
を設営 (R6年8月)

* 農園名の由来



「収穫体験 & 収穫感謝祭」

(R6年11月30日)

- ・ダイコン収穫体験 (1000本以上)
- ・体験農園の野菜を使った料理
- ・ステージパフォーマンス

* 200名以上の参加で賑わい



2) 外出支援



◎ 免許返納者や一人暮らしの高齢者等を対象とした期間限定の送迎サービス実証。

(期間：R7 1/11～2/28)

- ・玄関から目的地まで車（レンタカー）による往復利用。距離の限定は特に行わず。
- ・交付金活用の事業なので利用料は無料（利用者には感想アンケートを記載）
- ・有償ボランティアとして運転手も地元募集

→現在、15名の利用登録者、3名の運転手にてサービス実証中。

＊ 実質、送迎 + α のサービスに評判は上々。

4. 農村RMO活動の課題

①実行体制の整備に後手

（活動を推進する住民（仲間）の巻き込みに遅れ）

②事務局の負荷集中による、協議会運営の後手

- ・国の交付金運用ゆえの細かな制約、県の厳しいチェック
- ・ひとり事務局体制の限界

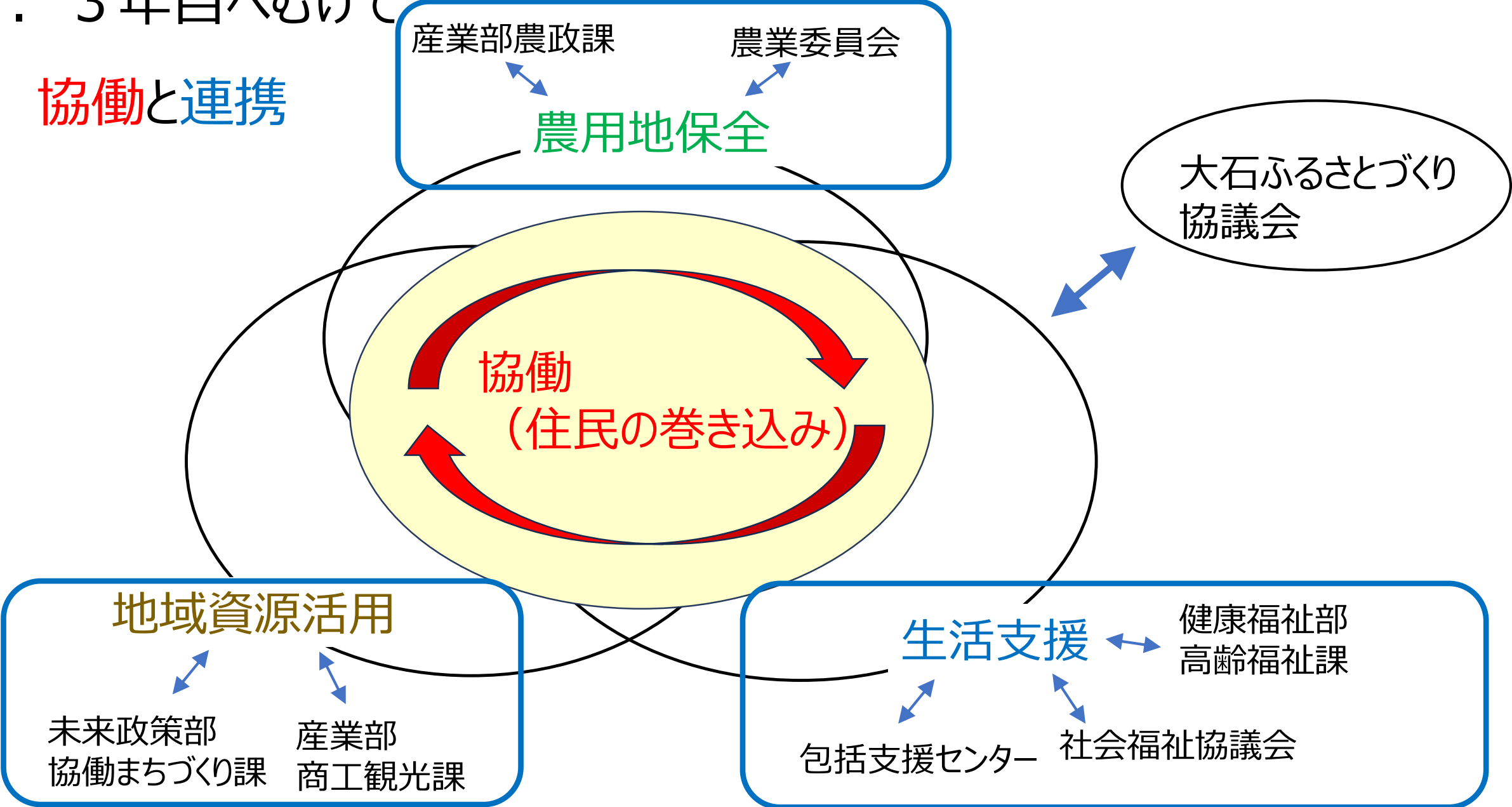
→ 限られたリソースのなかで 3 年間で成果をださねばならない
というプレッシャー(内憂外患)

◎ 協働を阻む地域住民の心の中を覗く

- 地域に対する危機意識はある
ただ、どうやって解決していくのかがわからない
 - 地域づくりの学び
(地域を活性化のノウハウの習得)
 - 自分に何ができるか？
 - 地域づくりの共感、皆で考える
(思いの共有、得意技の共有)
(三人寄れば文殊の知恵！)
 - 責任という呪縛
(言い出しっぺが損をする)
(仕事、家庭との両立)
 - 地域づくりの実験、リスクなし
(やりたい事から、自分事から)
(できるところから、できる範囲で)
(協働参画による負荷分散)
(失敗大歓迎)
- 時間がかかる・・・

5. 3年目へむけて

協働と連携



おわりに

- ①地域自立において結果をだすには、農村RMOの3年間はあまりに短すぎる（地域自立のための基盤の基礎までがせいぜい）
→**未来へ向けた持続的成長の仕込み**が重要（×元の木阿弥）
- ②中山間地域を支援する助成制度（国・県・市）は有用な仕組みだが、農村RMOはあまりに重たい
→**地域の状況にあわせた助成制度のメニューの整理と情報提供**
（保険の窓口的支援要望）
- ③連携への積極的姿勢
→住民主導の地域づくりにおいて、外部とは**相互連携**が大前提
傍観→応援→協力→協働の意識・行動改革を！

参考

分野	取り組みテーマ	令和 6 年度取り組み
農用地保全	・有機 1 0 0 % 農業推進 ← 大石 3 ちゃん倶楽部の発展形 - 有機 1 0 0 % (EM 菌活用農法) 1 0 h a 実証 ・遊休農地活用計画 - 体験農園 (利用計画、設営、実証) - 農福連携 (活用計画、設営、実証) ← B 型就労支援活用 ・獣害対策計画、実証	・土づくり勉強会 (継続) ・地元栽培者への個別技術サポートによる有機栽培技術の向上 ・大石地区の農地マップの作成 ↓ ・遊休農地の活用に関する議論 ↓ ・農福連携：ひろせ福祉会とのB型就労支援に関する協議、実証 ・獣害対策：センサー／カメラ設置による獣害調査 ・体験農園：大石 8 ちゃんファームの運営 ・新たな休耕地開墾着手

参考

分野	取り組みテーマ	令和 6 年度取り組み
地域資源活用	・地域資源活用研究会の発足（中堅若手メンバーの巻き込み） -地域資源活用に関する計画（地域のブランディング、地域の収益獲得、交流促進 等） ・I Tを活用した物流／販売計画推進（ネット販売等） ・6次化商品計画・実証 ・地域のプロモーション ・地域学生参画共同イベント企画	・地域資源研究会での情報交換・ワークショップ実施 ・地域資源活用計画 大石のブランドデザイン ↓ ・地域の新たな産物、6次化商品の選定 ・地域のプロモーション -YOUTUBEチャンネルの開設、情報発信 -スーパーいちい販売エリアにデジタルサイネージ設置効果実証 ・福島学院大学と食に関する共同開発

参考

分野	取り組みテーマ	令和 6 年度取り組み
生活支援	・生活支援（暮らし）に関する地域住民を対象とした意識調査 ・高齢者の見守り・生活支援計画 ・高齢者の見守り・生活支援実証 -外出支援実証 -地域のナースサポート事業 -健康の見える化実証（モニターの拡大、データ活用の浸透）	・住民意識調査の実施 ↓ ・高齢者の見守り・生活支援健康計画 ↓ ・外出支援実証（車：地域住民有志による運転手確保） ・地域のナースサポート事業体制準備（地元の元看護・介護師の募集） ・健康の見える化実証 -高齢者にやさしいデジタル機器の選定 -高齢者向けスマホ、LINE教室 ・高齢者の見守り・生活支援に関する、関連団体との連携計画（伊達市健康福祉部、包括支援センター、社会福祉協議会等との役割分担）

ご清聴ありがとうございました